



児童の思いを引き出すのに役立つ「パペット」を使った道徳の授業を紹介いたします。パペットを授業で使うことを知らせると、パペットをいつ使えるのかを期待しながら、子どもたちは乗ってくれます。指導者が道徳的に望ましくない寸劇を見せて、「それは違う!」、「僕にやらせて!」とやる気を引き出してから、子どもたちにパペットを渡します。子どもたちは道徳的に望ましい態度を見せたいという意欲がありますが、どう表現しているかわからない児童のために、寸劇の前に望ましい行為は何かをみんなで確かめ、板書に残しておきます。支援の必要な児童にはパペットを使う時に板書を見ながらセリフを言えるようにし、望ましい行為への意欲付けを図ることができます。

◆「パペット」を使ったロールプレイ◆

事例①：にがてなたべもの

絵本「いわしくん」
修学院小教頭の鎌田先生に
紹介してもらった絵本です。
菅原たくや 作 文化出版局

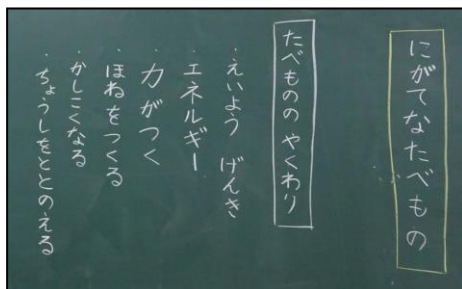


ぼくは、魚が苦手だなあ。魚に栄養があるってことは分かるんだけど……。



魚が苦手だから、食べなくてもいいよね。

だめだよ。魚には栄養があるんだから、がんばって食べようよ。



魚を食べるといいことを寸劇の前に話し合い、板書に残しておきます。

パペットで話すと、いいことをいいたくなっちゃうんですよ。



事例②：100てんのおどろぐばこ



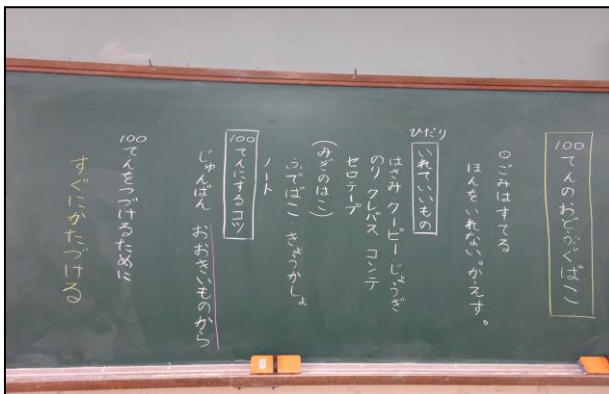
お道具箱に、つい本を入れちゃうんだよなあ。すぐに読めるし。でもそのせいでお道具箱が使いにくい時が確かにあるな。



すぐに片付けた方がいいよ。その方がすっきりするし。



片付けなんて、後でもいいよね。遊びに行きたいし。



お道具箱の整理の仕方をみんなで確かめておき、板書しておきます。

パペットでロールプレイをすることによって、キャラクターになりきって「楽しい」「分かる」授業につながられます。ぜひ実践してみてください。

「いわしくん」の授業をした後、魚が苦手な児童は、給食の魚に挑戦すると、「僕の骨になるんだからね。」と力こぶを作って、自分を奮い立たせていました。「いわしくん」のおかげです。ありがとう！

お道具箱の授業後は、相変わらず、本を机にしまう児童はいますが、いらぬものをため込むことは少なくなってきたように感じます。

すぐに効果は表れないかもしれませんが、継続は力なりを信じて、子どもたちの意欲をくすぐっていきましょう。